

地球温暖化とは？

(1) 温暖化の仕組み

私たちの住む地球には、窒素や酸素などからできている大気があり、地球の表面を包むように取り巻いており、この大気のおかげで、地球の気温は快適に保たれています。

大気の中に 0.04%とほんのわずかしかなない二酸化炭素は、地球の平均気温を 15°Cくらいに保ってくれており、こうした働きをしてくれる気体を、「温室効果ガス」と呼びます。

200 年くらい前に産業革命が起こると、人類は地中から石炭や石油などを掘り起こしてたくさん使うようになりました。

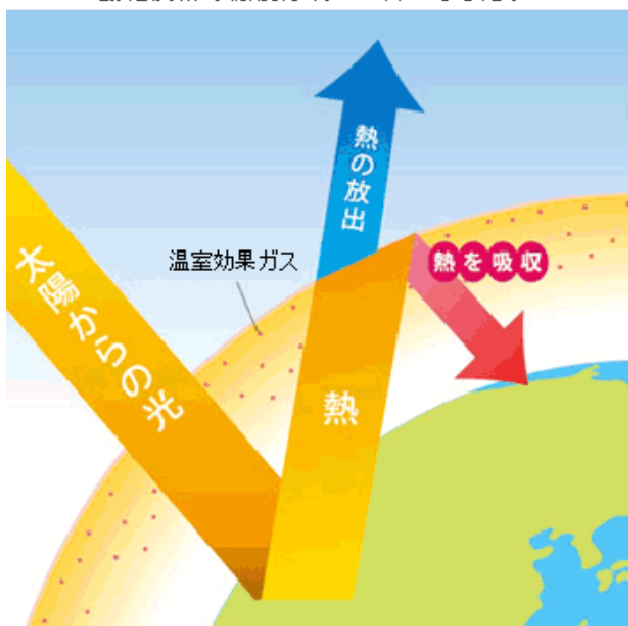
石炭や石油を燃やすと、二酸化炭素が空気中に出ますので、この 200 年で大気中の二酸化炭素の量は約3割も増えてしまい、地球の平均気温が上がっているのです。これが「地球温暖化」です。

温室効果ガスには、二酸化炭素のほかにもメタンやフロンなどがあります。中でも「フロン」は、もともと自然界にはない、人間が作り出した化学物質で、二酸化炭素よりもはるかに強い温室効果があり、わずかな量が大気中に出ただけでも温暖化の大きな原因になるのです。

【温室効果ガスと地球温暖化メカニズム】

約200年前の地球

産業革命の始まった頃の二酸化炭素の濃度は約280ppmでした。



現在の地球

二酸化炭素濃度は、現在では370ppmを超えてしまいました。

